

京都大学瀬戸臨海実験所振興會

水族館月報

No. 84

1959. 8月 (9月5日)

録 事

上旬台風6号、7号が相次いで南紀に接近して北上したため近畿一帯に集中的豪雨をもたらしたが、幸に被害はなかった。

8月19日、近畿財務局の管財部次長秋沢礼二、総括課長楠佐藤原武、総括係長大藪豊久、和歌山財務部事務官木村卯の4氏振興会の現地調査のため来白、京都大学側より立合のため石本管財掛長、生物監事、福島委員が同行、同夜、実験所側委員をまじえて右奥の井にて一同会食懇談した。

本年より始めて観測船「宗谷」による第2次南極観測隊の南極生物報告を実験所の特別出版物として刊行することになり、本会はこれが出版費を補助した。今即出版されたものは谷田(海綿類)、仲吉(放射虫類)、平野(柱藻類)、畑井(蛸足類)、時間(海鞘類)、吉井(鮎足類)の6篇よりなり、5-6月に発行、8月下旬各関係研究機関に配布された。

8月22日生物監事は水族館増改築案を携えて関係官庁に折衝のため来上した。

英国留学中の原田研究員の代りに大学院学生高松定昭君を7月1日より臨時に研究室に採用した。なお水族館の飼育掛見習として彦坂伸明を8月より講入れた。

既報の原田研究員は乗船 Corfu 号に乗りかえ、一路留学先英国に向ったが、途中 Singapore に寄港中、本館にも来てなじみの深い Nathan 館長の案内で同市の Van Kleeff 水族館を訪れ、所属の採集船で付近の海にも着いた由寄信があった。同君の英国到着は9月始めの予定。

近年食用のためウニ類を採集する加工業者がふえたために実験所附近にウニ類が激減し研究上にも学生実習用にも多大の支障を来たし始めたので、かねてより白浪漁業組合に申請中のところ、6月24日よりサマーハウス付近の磯のウニ類採捕を漁業組合の名で禁止されることに決まった。

業 務 概 況

◎ 8月の入場者数

区 分	大 人		小 人		合 計		
	本月分計	累 計	本月分計	累 計	本月分計	累 計	
水俣館発売	個人	9377	35201	2664	4916	12041	40117
	団体	10861	49332	—	—	10861	49332
交通公社発売	3419	21731	—	—	3419	21732	
明光バス発売	25028	84676	3603	5209	28631	89885	
合 計	48685	190940	6267	10125	54952	201065	
無 料	豊神中決小学校児童				15	463	

団 体 一 般 125組、学生 28組 計 153組

◎ 8月の事業収入

(今年度累計)

観光売上金

{	窓口発売	368,715	1,817,105
	交通公社クーポン	100,848	404,924
	明光バス観光券	672,257	1,602,257*

予金・積立金利息 — 271,101

雑 収 入 52,096 93,636

魚 菜 料 下 — 830

絵はがき料 下 61,330 130,440

計 1,255,246 4,320,293

※ 明光バス観光券未収分 豊神水芸通大人券 22030枚

全 上 小人券 7176枚

豊神水芸通大人券 5枚

◎ 8月の支出

水俣館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人件費	108,943	534,737	
会議費	—	68,284	
備品費	11,340	37,800	
消在費	13,148	99,214	
事業費	30,248	242,154	
雑損費	4,150	91,620	
其 他 経 済 費	19,705	133,574	
積立金	204,865	853,265	
合 計	392,399	2,067,648	

実験所経費

費 用	金 額	累 計	備 考
研 究 費	—	70,000	
奨 学 金	—	12,000	
備 品 費	—	116,087	
消 耗 費	—	—	
刊 行 費	162,951	162,951	Publ. Vol. 7 No. 2 刊行
役 務 費	—	22,550	
合 計	162,951	383,588	

博物館経費

費 用	金 額	累 計	備 考
人 件 費	35,030	166,215	
備 品 費	—	15,000	
消 耗 費	—	—	
役 務 費	—	1,860	
合 計	35,030	183,075	

臨時費

支出なし

支出合計

(今年度累計)

水族館経費	392,399	2,067,648
実験所経費	162,951	383,588
博物館経費	35,030	183,075
臨時費	—	50,000
計	590,380	2,684,311

◎ 8月末現在高

前月よりの繰越	971,116
今月の収入合計	1,255,246
今月の支出合計	590,380
現 任 高	1,635,982

◎ 前年度との比較

	1958	1959	増 減
入 場 者 数	36350	54952	+ 18602

水族館記事

- ◎ 南方にすむヤシガニが28日水族館に入った。田辺市江川亀田長造氏の採取による中部太平洋サント島産のもので、体長34.5cmのオスである。翌日からNo.34の水槽の水を抜いて水槽内を椰子の葉とサンゴで装飾して観覧に供した。
- ◎ 長らく水槽に入らなかつたマアジとサバの仔を20日早朝に実験所裏で網不知の地引網によつてとれたものから数百個体もらひうけ、No.37の水槽に入れた。運搬の途中に多くの個体が死に、約100個体が生き残つた。
- ◎ 2日アカウミガメの生まれたばかりの仔を約50個体入槽。
- ◎ 今月はハナミノカサゴが多く入り、6日・19日・23日・25日と採集を含めて合計5個体に達した。
- ◎ 7月20日以来、飼育中の大きなマダコは25日死亡した。
- ◎ アサヒカニは7月には7個体いたが、8月に入って続々と死亡し、余すところ1個体となつた。今のところ、その原因はよくつかぬ。
- ◎ 8月31日現在、観覧水槽に収容飼育中の動物は総計123種、1061個体以上で、その内訳は次の通り。

カイメン類	1種	カニ類	8種
ヒドロ虫類	1種	ニ枚貝類	5種
ウミトサカ類	2種	巻貝類	7種
ヤギ類	3種	ウミシタ類	4種
イソギンチャク類	1種	ヒトデ類	5種
ハナギンチャク類	1種	ウニ類	11種
イシサンゴ類	6種	ナマコ類	4種
ホウキムシ類	1種	ホヤ類	1種
カブトカニ類	1種	軟骨魚類	2種
エビ類	7種	硬骨魚類	41種
ヤドカリ類	5種	カメ類	3種

資 料

- ◎ 8月の気象 (9時観測)
 南水槽室 (水温比重はNo. 25水槽)

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数(16)	5	5	6
室 温(°C)	$\frac{26.0 \sim 30.2}{28.4}$	$\frac{26.3 \sim 29.5}{28.1}$	$\frac{28.3 \sim 30.0}{29.1}$
水 温(°C)	$\frac{26.44 \sim 27.80}{27.41}$	$\frac{25.71 \sim 27.56}{26.52}$	$\frac{27.00 \sim 27.82}{27.42}$
比 重(0.15)	$\frac{2338 \sim 2455}{24.20}$	$\frac{1784 \sim 2433}{21.91}$	$\frac{2267 \sim 2437}{23.55}$

取入口

水 温(°C)	$\frac{27.08 \sim 28.75}{27.74}$	$\frac{25.68 \sim 28.23}{26.66}$	$\frac{26.17 \sim 28.55}{27.73}$
比 重(0.15)	$\frac{24.28 \sim 25.07}{24.59}$	$\frac{19.80 \sim 25.12}{23.55}$	$\frac{22.83 \sim 24.57}{23.94}$

来 訪 録

- 8月15日 神戸市須磨水族館奥野良之助氏来館(鱼类採集並に水中撮影のため)
 8月19日 東京シネマ撮影監督小林米作他4氏来前(科学映画マリンスノーの撮影打合せかたがた意見聴取のため)

昭和34年9月5日 (NO. 84)

編集兼
発行者

内海 富士夫

発行所

瀬戸臨海実験所
和可山白旗町
瀬戸臨海実験所
(Tel. 白旗温泉 515)